

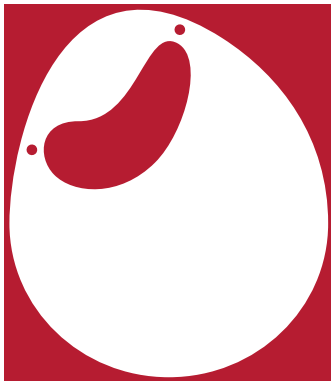
「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」で 2022年度に「道後オンセナート2022」を開催します

日本最古といわれる道後温泉では、本館保存修理後期工事期間中の新しい活性化策「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」を2024年3月まで実施しています。2021年度は「地熱づくり」をテーマに、地元集客や関係人口の構築を進めています。2022年度は、観光人口を拡大し、観光消費を増やすため、4年ぶりに「道後オンセナート2022」を、2022年4月28日(木曜日)から開催します。「道後オンセナート2022」は、2021年に作品公開した大竹伸朗さん、蛭川実花さん、隅川雄二さん、尾野光子さんの4名に加え、約30組のアーティストやクリエイターが参加します。自由に鑑賞できる常設のアート作品に加え、イベントを随時開催し、いつ来ても楽しめる、何度も訪れたいくなる芸術祭を目指します。テーマは「いきるよろこび」です。道後温泉は昔も今も、人の身体を、心を温め続けてきました。心身を癒し、活力ある人生を送り、また、活気あふれるまちを未来につなぐため、地域とアーティストやクリエイターが協力し、世界を温めます。

「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」で、観光消費を増やしたり、域内経済循環を広げたりしながら関係人口を築き、人材を育成して持続可能なまちを実現します。



「道後オンセナート2022」ポスター



DOGO
STAY HOT STAY CREATIVE

「道後オンセナート2022」の概要

- 【名称】 道後オンセナート2022(どうごおんせなーとにせんにじゅうに)
- 【テーマ】 いきるよろこび
- 【会期】 2022年4月28日(木)~2023年2月26日(日)
- 【場所】 道後温泉地区
- 【主催】 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会
- 【企画プロデュース】 スパイラル/株式会社ワコールアートセンター

テーマ

「いきるよろこび」

世界中の全ての人々が求める、親しい人との再会の喜び、声を掛けあい寄り添って実感する安らぎ。新しい時代を開こうとする強いエネルギーがふつふつと湧くなか、道後温泉では、アートを通じて人々の五感を開き、蓋をしていた熱情を呼び起こします。日々がなにより楽しく感じられるよう、みんなで、道後で、温まろう。

「道後オンセナート2022」ポスターデザイン

デザイナー

小林 一毅 (こばやし いっき)

グラフィックデザイナー。1992年滋賀県彦根市生まれ。2015年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。資生堂クリエイティブ本部を経て2019年に独立。東京TDC賞、JAGDA新人賞、日本パッケージデザイン大賞銀賞、Pentawards Silver受賞。



小林一毅さん

コンセプト (小林一毅さん)

2021年から継続する熱気の造形によるコミュニケーションを拡張し、直感的に喜びを感じられるようなプリミティブな造形と色彩表現によって「いきるよろこび」を表現します。オンセナートの告知物は、様々な媒体に応用され、まちの至る所に掲出されます。多くの市民が日常的に目にするものになるため、ポスターは言葉のまだわからない幼児から100歳のご老人まで、老若男女様々な人達に歓迎される、デザインでありたいと思っています。「いきるよろこび」とは何か、それを個人が明確に理解するのは難しく、感じるものだと思います。深い感嘆は展示作品を前にした時にとっておいて、告知物としては「綺麗、美しい」「元気になった」「明るい気分になる」まずはそんな感想が良いのです。そうした感想を抱くこともまた「いきるよろこび」であって、町中の様々な場所で「いきるよろこび」の入り口に誰しもが平等に立てることが重要なのです。そうした気持ちが醸成されて芸術祭に足を運ぶという意味では、気持ちを作るための告知物という立ち位置になります。色と形、最もシンプルな構成要素によって表現されたポスターは、一度見たら記憶にしっかりと刻まれるでしょう。いつでも思い出せて、コミュニケーションが取れることも大切なのです。

「道後オンセナート2022」の構成と特徴

① 常設展示作品

半径500mの道後温泉地区に作品がぎっしり。歩いて楽しむ芸術祭

道後温泉の魅力の一つは、歩いて巡れるコンパクトな温泉街です。起伏があって、さまざまな表情に満ちたまちの地理的条件を生かし、保存修理工事中の道後温泉本館の素屋根テント膜に施された巨大な大竹伸朗さんの作品を中心に、歴史ある道後の風情と、現代アートをともに楽しめる作品を展示します。国籍や性別、年代、作風も異なるアーティストやクリエイターたちが、道後のまちに、人に、エネルギーを注ぎます。

① オンセナートコレクション

国の内外で活躍するアーティストが、「いきるよろこび」をテーマに、個性的で感性豊かなアート作品を展示します。

【参加アーティスト】 (五十音順)

- ・市原えつこ (いちはら えつこ)
- ・Adrian Steckeweh (エイドリアン・シュテッケヴェー)
- ・oblaat (おぶらーと)
- ・TIDE (たいど)
- ・高橋 匡太 (たかはし きょうた)
- ・谷川 俊太郎 (たにかわ しゅんたろう)
- ・力石 咲 (ちからいし さき)

【展示中のアーティスト】

- ・大竹 伸朗 (おおたけ しんろう)
- ・尾野 光子 (おの みつこ)
- ・隅川 雄二 (すみかわ ゆうじ)
- ・蟻川 実花 (にながわ みか)

② マチコトバ

「文学のまち、松山」の特色を生かす言葉のプログラム

道後のまちを一冊の詩集に見立て、詩人やクリエイターなど、多様な参加者がそれぞれに思いを込めた言葉を路地裏、坂道、駐車場や建物の壁面などに表現します。文学のまちならではの、散策を楽しんでもらえるプログラムです。

② イベント

常設作品に加え、オープニング、秋、冬、週末にイベントを実施

蜷川実花さんの作品が施された道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 中庭「ハダカヒロバ」や上人坂、道後公園などを生かし、道後の賑わいを生み出す多彩なイベントを開催します。地元のパフォーマーやクリエイティブステイ公募プログラムに参加したアーティストやクリエイターからも登場し、いつでも楽しめる芸術祭、何度も訪れたい道後温泉を実現します。

① オープニングウィーク

期間：2022年4月28日(木)～2022年5月8日(日)

「道後オンセナート2022」のスタートを彩る特別ウィークです。オンセナートコレクション、マチコトバの参加アーティストやクリエイターのパフォーマンスなど、イベントを開催します。

② ハダカヒロバ秋まつり

期間：2022年10月10日(月・祝日)～2022年10月23日(日)

秋の盛り上がり演出するハダカヒロバの特別週間です。パフォーマンスアーツを中心に構成します。ハダカヒロバの芸術監督を務める、劇団快快 (FAIFAI) の野上絹代さんの監修で祝日と休日を中心に、ユニークなプログラムを上演します。

③ ひかりの実

期間：2022年12月16日(金)～2023年1月15日(日)

高橋匡太さんが、道後の冬の風物詩として親しまれている道後公園での「ひかりの実」の展示やワークショップを開催します。

④ 週末道後座

ハダカヒロバ、上人坂などを中心に、道後温泉地区の週末の賑わいを創出します。パフォーマンスアーツを中心に多彩な催しを開催します。

「道後オンセナート2022」開幕直前記者発表会

【日時】 2022年4月6日(水曜日) 午後2時～午後3時30分

【会場】 スパイラル 3Fスパイラルホール (東京都港区南青山5-6-23)

【主催】 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会

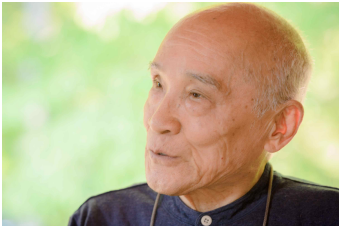
【内容】 「道後オンセナート2022」を広く周知し、観光誘客のため、報道機関や観光事業者向けに、発表会を実施します。

オンセナートコレクション 参加決定アーティスト (五十音順)

<p>市原 えつこ 読み：いちはら えつこ</p> 	<p>メディア・アーティスト。 自分の空想上のアイデアを発明品にして、世の中に投げかける活動を行う、妄想インベーター。 1988年生まれ。早稲田大学卒業。 日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を示す作品を制作する。 美術の文脈に依らず広く楽しめる作品性と日本文化に対する独特のデザインから、世界中の多様なメディアに取り上げられている。 第20回文化庁メディア芸術祭優秀賞。 2018年にアルス・エレクトロニカ賞でオノラリー・メンション受賞。</p>
<p>Adrian Steckeweh 読み：エイドリアン・シュテッケヴェー</p> 	<p>建築家・CGI (Computer Generated Imagery) アーティスト。 1987年生まれ。ドイツ出身。 Omega Centauri (オメガ・センタウリ) の作家名で仮想現実と現実の狭間で実験を試みながらInstagramエフェクトやグラフィックなども制作する。 Instagramのアカウント名は「@omega.c」</p>
<p>oblaat 読み：おぶらーと</p> <p>obla()t</p>	<p>メンバー非公開の現代詩人グループ。 2010年結成。 メディアアートとしての詩の表現を探求。 『車座』(象の鼻パーク,2011年)、 『となりの宇宙』(東京都現代美術館,2014年)、 『distance』(MIND TRAIL,2020年)、 『空気の日記』(ウェブマガジンspinner,2020年)など。</p>
<p>TIDE 読み：たいど</p> 	<p>ペインター。 1984年まれ。現在は東京を拠点に活動をしている。 20代前半に滞在していたオーストラリアで漫画家・歴史家の水木しげる氏の作品に出会い、独学で絵を描き始める。 2009年に東京に戻り、アーティストとしての活動を本格的にスタート。 一貫してモノクロームの世界を描き続けている。</p>
<p>高橋 匡太 読み：たかはし きょうた</p> 	<p>1970年京都生まれ。 1995年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。 光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。 京都市京セラ美術館、東京駅、十和田市現代美術館など建築物へのライティングプロジェクトは、ダイナミックで造形的な光の作品を創り出す。 多くの人とともに作る「夢のたね」、「ひかりの実」、「ひかりの花畑」など大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手掛けている。</p>

谷川 俊太郎

読み：たにかわしゅんたろう



撮影：深堀瑞穂

詩人。

1931年東京生まれ。都立豊多摩高校卒。

1952年第一詩集『二十億光年の孤独』出版。

以後、詩、エッセー、脚本、翻訳などの分野で文筆を業として今日にいたる。詩集に『21』『落首九十九』『ことばあそびうた』『定義』『みみをすます』『日々の地図』『はだか』『世間知らズ』『minimal』など、エッセー集に『散文』『ひとり暮らし』、絵本に『わたし』『ともだち』『もこもこもこ』など。

息子で音楽家の谷川賢作との共演にCD『クレーの天使』『家族の肖像』など。近刊は『バウムクーヘン』『あたしとあなた』『ページュ』など。

2010年よりoblaatの同人としても活動。

カ石 咲

読み：ちからいしさき



1982年埼玉生まれ。

多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業。

編むという手法で、場所のネットワークにまつわるインスタレーション作品を制作している。亡くなった母に幼少時に教わった編み物を、

人と繋がる手がかりとして作品制作に取り入れる。

縄文時代から続く生活用品を作るための技術である編み物に、

つながりを作る技術という新しい価値を見出すとともに、

様々な場所や人とのつながりを希求するようになる。

ハダカヒロバ 芸術監督

野上 絹代

読み：のがみ きぬよ



1982年東京生まれ。

多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒業。

クラシックバレエ、高校から振付け活動を開始。

大学在学中より同級生らとともに劇団小指値（現：快快（FAIFAI））を旗揚げ。

以降、俳優・振付家として同団体の国内外における活動のほとんどに参加。

ソロ活動では俳優・振付に加え演出力を武器に演劇／ダンス／映像／ファッションショーなど幅広く活動。

取材対応、問い合わせについて

アーティストやクリエイターへの直接の取材はお控えください。

取材の申し込みは、未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会事務局（松山市役所道後温泉事務所内）

または下記の広報窓口ご連絡してください。

【公式ホームページ】 <https://dogoosenart.com>

※新型コロナウイルス感染症の状況により、プログラム内容が変更になる場合があります。



公式HP

【本件に関するお問い合わせ】

未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会事務局（松山市道後温泉事務所内）

担当：菅、越智、徳岡、岡田

TEL：089-921-6464 / FAX：089-934-3415 / MAIL：dogojimu@city.matsuyama.ehime.jp

【広報窓口】

株式会社NINO 担当：清水

TEL：089-995-8783 / 080-6280-6970（問い合わせ時間：10:00-18:00/土・日曜・祝日以外） / MAIL：press@dogoosenart.com